

令和5年度

学校説明資料

資料の配付をもって前期の学校説明会に代えさせていただきます。

学校教育目標

えがお なかよし チャレンジ

- 自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 [知・体]
- 身近な人々や自然とのふれあいを大事にいこうとする子を育てます。 [徳・公]
- 自分の意思で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。 [関]

目次

- 1 学校長メッセージ
- 2 今年度の学校の方針
 - ・中期学校経営方針
- 3 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的な取り組み
- 4 今年度の重点取組
 - ・えがお「子どもたちの安心・安全・健康」
 - ・なかよし「学校の活性化」
 - ・チャレンジ「一人ひとりの力を伸ばす」



学校長メッセージ

子どもたちとともに 新しい時代へ架ける橋をつくりたい

学校長 西尾 琢郎

■人口減少社会に向けた、これからの教育について

今、社会は大きな変化のただ中にあります。ますますその速度を増す情報化、人口減少、雇用の流動化、さらには地球環境の変化。そのどれもが、これまで私たちが経験したことの無いものです。

私は、新しい時代、これからの社会に向けて行うのが教育だと考えています。来るべきその時代に、一人ひとりの子どもが、自分の望むような人生を生きられるように手助けすることが、教育の一番の目標です。

私たち大人が生きてきた時代とこれからやって来る時代の姿は、ハッキリと違うものになっていくという認識が、これからの学校を作っていく上での指針になります。時代の変化はすでに社会の至る所に現れていますが、ここでまず、ある企業の社長さんの言葉をご紹介します。

その人は、ドラマ『下町ロケット』のモデルになったと言われている植松電機という会社を経営されている植松努さんです。植松さんは、これからの時代について、こんな風に話されています。

「人口が急増している時代には、お客さんがどんどん増える状態ですから、作っても作っても足りません。サービスしてもしても足りません。(中略) この、人口急増期の成功の秘訣は、「すでに成功してる事をパクる」です。売ってる物を、真似して作ったら、絶対に売れます。流行のサービスを、真似して提供したら、絶対に売れます。なんせ、市場が拡大し続けてるからです。だから、この時代の成功のためには、「普通」「同じ」「前例踏襲」がものすごく効果的です。みんなこれをやってきました」

「しかし、平成の真ん中編(引用者注:「編」は原文のままです)から、人口が減り始めました。人が減ると、提供した物は余ります。だから、本当は、全ての企業が生産を縮小すべきです。本当は、人口減少期の経済プラス成長は、極めて困難です。(中略) 人口減少期には、余ってるから、同じものは、くらべられて、安い方が選ばれます。これでは喰っていきません」

「人口減少期に生き残るためには、人口増加期の真逆を行かないといけません。「珍しい」「違う」「前例がない」が、ものすごく重要です。なのに、まったく同じリクルートスーツ。全く同じ自己アピール。教えられたり、本に書いてあることは、みんなが知ってるから競争力にならないのに。そして、子ども達に「普通」を強要する大人達。(企業も学校も保護者も)」

「これからの日本の国力向上のためには、150年間続いてきた「過去の普通」や「過去の常識」に縛られない人間が必要です。(中略) しかし、「過去の普通」や「過去の常識」に縛られない人には、今まで以上に、自由の意味を伝えなければいけません」

「自分の自由のために、他人の自由を侵してはいけません。この原則を、しっかり身につけていない人達は、自分のために他人を犠牲にできるので、社会を構成できません。そして、人は、力をあわせられなければ、わずかなことしかできません。この重大な原則を知らない人は、子どもの自由を奪うことで、子どもが大人になると勘違いしています」

「大人とは、あきらめて、言うことを聞く人間ではありません。大人とは、真の自由を知るものです。もうすでにスタートしている新しい時代を生き延びるためには、自由の意味について、沢山考えるべきだと思います」(「植松努のブログ」より引用)

■ルールと自由を考える

私はこのお話を聞いたとき、胸を打たれる思いがしました。学校という場所は、子どもたちに、あまりにも簡単にルールを課し、その自由を制約してきたのではないかと気づかされたからです。

学校は集団生活の場ですから、互いに気持ちよく過ごすために一定のルールが必要となります。しかし、そこで大切なのは、そのルールが何のために設けられているか、またそのルールが、結果としてどんな影響を子どもたちに与えるか、ということです。

他人を傷つけ、子ども自身が傷つくことを防ぐためのルールは、基本的に大切です。しかしそうした目的であっても、過剰な禁止的指導は、あるべき失敗の経験さえも子どもから奪ってしまい、いざ学校の外で本当の危険に直面したときに対応できなくなってしまう可能性もあります。ルールによる指導は、できるだけ抑制的であるべきだと私が考えるのは、こうした「やりすぎ」に加えて、子ども自身が納得できない指導によって、かえって理不尽さや反抗心ばかりを子どもの中に根付かせてしまうのではないかと心配するからです。

また、ルールに頼って行動を律しようとする試みは、その副産物として、ルールへの依存という思考停止に陥りがちだということも見逃せません。

■明日も太陽は昇る

かつてはある意味でタブー視されてきた LGBTQ+の問題についても、今ようやく、社会的な合意が形成されつつあるのは皆さまご存じの通りです。しかし当事者たちが本当に長い間苦しんできたことも、今では多くの人が理解していると思います。ここでまた一つご紹介したいのが、同性婚に関わる法案審議で、ニュージーランドの国会議員が 10 年前に述べた言葉です。

「(法案への) 反対の多くは穏健派からのものでした。この法案が社会にどのような影響をもたらすのか心配している人たちでした。その気持ちは分かりますし、尊重もします。彼らは自分たちの家族に『何か』が起こることを心配していました。そこで、繰り返しになりますが申し上げます。今、私たちがやろうとしていることは、『愛し合う2人の人が結婚できるようにしよう』ただそれだけです。外国に核戦争をしかけるわけでも、農作物を一掃するウイルスをばら撒こうとしているわけでもありません」

「今ここで、この法案に反対する人たちに約束いたします。明日も太陽は昇ります。あなたの 10 代の娘は変わらず反抗してくるでしょう。明日、住宅ローンが増えることはありません。皮膚病になったり、湿疹ができたり、布団からカエルが出てきたりもしません。明日も世界はいつものように回り続けます。だから大騒ぎするのはやめましょう。この法案は当事者にとっては素晴らしいものですが、そうでない人には今までどおりの生活が続くだけです」(TBS NEWS DIG 動画の解説より引用)

いかがでしょうか。私は学校でのさまざまな指導も、これと似たものが決して少なくないのではないかと考えています。本来の意図とは別に、結果として同調圧力を裏打ちしてしまうようなルールは、根拠のない安心感の拠り所となる一方で、それによって苦しむ子どもを生み出してしまうことも、残念ながら珍しくありません。

■ルールづくりは対話から

実際には今現在も、本校の「ルールブック」には、まだまだこれまでの時代感覚に根ざしたルールがいくつも残っています。私は本校の先生たち、保護者や地域の皆さん、そして誰より子どもたちと対話を重ねながら、それらをひとつひとつ見直していきたいと考えています。単なる不満のぶつけ合いではなく、子どもたちが生きていく将来の社会の姿を思いうかべながら、新しい新橋小学校のありようを一緒に考えていきたいのです。

繰り返しになりますが、本校がこれから大切にしたいと願っているのは、誰もがお互いに対して寛容で、

子どもたち全員が心から安心して過ごせる環境づくりであり、その中で伸びやかに育まれる多様性が一人ひとりの子を輝かせ、未来の可能性を切り開いていけるようにすることです。

学校説明会という機会にあたって、かなり過激なことをお話ししたかもしれませんが、しかし、これからの社会に対する認識と、そこから導かれる「珍しい」「違う」「前例がない」ことの価値を子どもたちに伝えていく義務が私たちにはあると思います。ルールにただ従うだけでなく、自らルールを改善したり生み出したりし、自分とは違う他者と力を合わせていく力こそが、これからの社会で求められる力だと、私は確信しています。

■令和5年度・4つのポイント

今日は社会の変化をどう捉えるかを出発点に、学校でのICT活用、学習評価の見直し、インクルーシブな学び、そしてコロナ後の教育活動についてお話しする予定でした。しかしあまりにも速く大きな社会の変化と、過去の伝統を背負った学校との距離の大きさから、話が頭でっかちになってしまいました。ですが、どれも非常に大切なことですので、以下、簡潔にこれら4つの点についてお伝えします。

1) 学校におけるICT活用について

昨年度に引き続き今年度も、端末持ち帰りによる活用を進めてまいります（実施時期や内容については学年によって異なります）。現状、まだまだ「自分を高める」以外の使い方に気持ちが向いてしまう児童が多いことも事実です。しかし裏を返せばそれは、ICTを自分の学びに生かすための知識や経験が足りていないということでもあります。本校では引き続き、紙や鉛筆だけではなし得ない、ICTならではの良さを生かした学びの可能性を追求して、子どもたちと一緒に学びに取り組んでいきます。

2) 学習評価の見直しについて

本校では来年度に向けて「あゆみ」の所見欄を廃止し、評価のみの記載とさせていただくことを検討しています。そのねらいは、年間数カ月単位の時間を集中的に割いている「成績処理期間」に過大な労力がかかっている現状を見直し、日々の授業や生活の中で、随時行う子どもたちへのフィードバックに注力することにあります。いわば「成績表のための事後評価」から「子どもたちの力を伸ばすための随時評価」に軸足を移すことをねらったものです。

ですから何よりもまず、教員が見取った子どもたちが今「できていること」「もっとこうしたらどうかというアドバイス」を、子どもたち自身に返していくことを最優先に取り組んでいきます。一方、これまで所見欄で保護者の皆さまにお伝えしてきたお子さまの生活・学習状況の具体については、子どもたちの実際の変化を通じてご覧いただけるようにすることを目指すことはもちろん、参観日や面談その他の機会を捉えてお伝えしていくことを考えております。何卒ご理解いただけますよう、よろしくお願いいたします。

3) インクルーシブな学びについて

本校には現在、個別支援学級5学級に約30名の児童が在籍しています。本市における児童への支援は、その子にとって最適な場で、最適な学びを提供することを目指して、特別支援学校のほか、各学校に設置された個別支援学級、市内数十校に設置された通級支援教室、そして一般学級におけるさまざまな配慮・支援員による特別支援など、多様な仕組みが設けられ、実施されています。支援級児童の保護者の皆さまはもちろんのこと、そうでない保護者の皆さまにも、ぜひこうした制度のあり方をより知っていただき、今後それをいっそう良いものにしていくため、たくさんのご意見をいただきたいと考えています。

冒頭お伝えした話題にも通じることですが、子どもたちが「同じ」「普通」にのみ囲まれて過ごすことは、これからの社会に羽ばたいていくとき、決してプラスにばかり働くわけではありません。自分とは違う存在を認め、ときには力を合わせ、ときには折り合いを付けながら、共に生きていこうとする意識やその経験こそが、これからの時代に必要だからです。そうした前提から見えてくる「最適な場」「最適な学び」も、今後大きく変わってくる可能性があるでしょう。今も子どもたちは在籍級にかかわらず、学校の中でさまざまな交流の機会を持ち、お互いから日々多くのことを学んでいます。どうかすべての

保護者の皆さんが、この「インクルーシブ」を、自分ごと、我が子のこととして考えてくださるようお願いいたします。

4) コロナ後の教育活動について

新型コロナ感染症の、感染症法における扱いが変わり、間もなく一か月となります。この間、本校での感染状況は極めて落ち着いた状況にありますが、それでもこの病気がまったくゼロになったわけではありません。とは言え法律上の扱いがそうであるように、基本的には今後その他の感染症と同様の取り扱いをしていくことになります。

こうした中、学校生活や学習も、従来の形での実施が可能となってきました。給食についても学級の状況に応じて、順次前向き給食や黙食を終了させており、調理実習についても再開しつつあります。水泳指導も全校で再開する予定です。

しかしすべてをコロナ前に戻すことはせず、コロナ禍の間に得た気づきや学校の現状に合わせて、変えていくことを検討しているものもあります。

音楽朝会は、かつてと同様、体育館に全校児童が集まって発表し、鑑賞することを基本とします。しかしコロナ禍への対応の中で校内配信を行うことも可能となったため、発表する演奏の内容によっては、楽器を多用したり、演技を組み合わせたりを限られたスペースで行うために、敢えて全校児童を体育館に集めない場合もあり得ると考えています。このように、活動の可能性を広げるという観点から、従来の形に拘らない場合があります。

そして運動会です。コロナ前はお弁当の時間を挟んで午前午後の開催としておりましたが、今年度以降は、コロナ禍の間と同様、午前開催を基本とします。これはまず第一に、現在の学習指導要領が求める指導内容の増加と、運動会のための準備や練習に要する時間とを勘案した結果です。昨年度の学校評価アンケートでも、運動会の開催形式についてはさまざまなご意見をいただきました。親子で食べるお弁当の時間の大切さなど、頷けるものが多かった一方、必ずしも保護者が参加できないご家庭の存在や、場所取り・お弁当作りの負担感についてのご意見などもあり、総合的に判断させていただきました。保護者の皆さまの観覧スペースや、来賓の招待などについては引き続き検討し、子どもたちの姿をより親しくご覧いただけるように工夫していきたいと思っております。何卒ご理解、ご協力をいただけますようお願いいたします。

以上、お伝えしたいことがあまりにも多く、大変な長文になってしまいました。これを動画でお伝えするとおよそ30分もの長編になってしまうことが分かりましたので、今回は文章のまま、皆さまにお届けいたしました。最後までお読みくださりありがとうございました。

今年度の学校の方針

横浜市立 新橋小学校

令和 4 - 6 年度版 中期学校経営方針 (令和 5 年度修正)

学校教育目標	「えがお なかよし チャレンジ」					
	○自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。		【知・体】			
	○身近な人々や自然とのふれあいを大事にしていこうとする子を育てます。		【徳・公】			
	○自分の意志で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。		【開】			
学校概要	創立 52 周年	学校長 西尾 琢郎	副校長 青木 英一郎	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 578 人		主な関係校: いずみ野中学校、阿久和小学校、いずみ野小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	いずみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 ～なりたい自分を見つける力～	いずみ野中学校 阿久和小学校 いずみ野小学校	「夢の実現に向かって」 ・学びの目標の実現に向かって、挑戦し続ける子ども ・自他の違いを認め、進んで人とかがわれる子ども ・自尊感情を高め、自信をもって生きていく子ども 小中一貫教育の推進を行う。①児童生徒一人ひとりの理解や情報交換の充実を図り、9年間つながりのある個に応じた教育の継続 ②各教科における授業のつながりと一人ひとりの特性を意識した指導内容の充実

中期取組目標	○「えがお なかよし チャレンジ」の実現に向け、地域と学校の連携を図りながら全職員がチームとなり、活力と魅力にあふれた地域から信頼される学校づくりを目指します。 ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを推進し、学力向上に努めます。 ・身近な人やまちとのつながりを大切にし、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。 ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮しながら学校生活に主体的に参画し、楽しい学校生活を送れるようにします。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 学習指導	①各教科について学年ブロックを中心に、「主体的に考え、互いに学び伝え合う児童の育成」を目指した授業づくりを目指す。それぞれの児童の環境や成長、発達段階に応じて、授業の工夫を行っていく。②一斉テストの実施や授業の工夫を通し、意欲的に学び続けられる機会をつくる。③学校司書、司書教諭、図書委員会の活動により、学校図書館の利用促進を図り、読書活動を充実させる。
担当 研究部	
徳 道徳教育 人権教育	①たてわり班活動や幼保小連携を中心に、異学年交流を工夫して実施する。②道徳の校内研修を行い、道徳の時間を充実させる。③人権週間の取組を充実させる。④横浜プログラムを活用して、より良い人間関係を構築する機会を設ける。
担当 総務部	
体 健康教育	①全校による体力向上の取組や体育科授業の改善を通じ、体を動かすことの楽しさを感じる児童を増やすとともに、日常的に運動する時間や機会を増やす。②健康についての活動を年間を通して継続的に取り組み、自ら健康を保持増進しようとする姿勢を培う。③栄養士と連携しながら家庭科や特別活動などで食育を実施し、食への関心を高める。
担当 指導部	
公開 自分づくり教育	①学んでいることを社会と関連付ける工夫などを通して、身近な出来事や社会問題への興味関心を高め、自分の役割と責任を自覚し、行動する力を育む。②横浜の時間などの学習活動を通して、地域の方の思いや生き方にふれ、地域社会のために自分ができることを考え、他者と協働しながら課題解決を図っていく。③自分づくりパスポートを活用し、自己理解を図る。
担当 研究部	
いじめへの対応	①月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知案件と解消案件を共有するとともに、研修等を通して全教職員でいじめを見逃さない体制づくりを行う。②生活アンケートを年2回実施したり、教育相談を実施したりするなど、いじめの未然防止や早期発見・早期解決に組織的に取り組んでいく。
担当 指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①3部会を運営組織の柱に効率的に会議を進めていくとともに、ICTを活用して情報の共有化を進め、組織的な働き方改革につなげていく。②メンターチームを活性化させ、授業研究や実践提案を通して、教師として必要な実践力を高める。③指導力や危機管理対応能力、ICT活用能力など、学校に求められている教師の力量を高めるために、校内研修を計画的に実施していく。
担当 教務	
地域学校協働活動	学校運営協議会等を生かし、地域との意見交換を積極的に行い、より良い意見を吸い上げ、学校経営と教育活動の充実をはかる。
担当 教務	
担当	b8
担当	b9
担当	b10
担当	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「えがお なかよし チャレンジ」

- 自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 【知・体】
- 身近な人々や自然とのふれあいを大事にしていこうとする子を育てます。 【徳・公】
- 自分の意志で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。 【開】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力
～なりたい自分を見つける力～

具体化した資質・能力

- 意思決定する力
- 自分らしさを発揮しようとする姿勢
- 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢
- 身近な地域への愛着
- 主体性・積極性

中期取組目標

- 「えがお なかよし チャレンジ」の実現に向け、地域と学校の連携を図りながら全職員がチームとなり、活力と魅力にあふれた地域から信頼される学校づくりを目指します。
- ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを推進し、学力向上に努めます。
- ・身近な人やまちとのつながりを大切にし、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。
- ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮しながら学校生活に主体的に参画し、楽しい学校生活を送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①各教科について学年ブロックを中心に、「主体的に考え、互いに学び伝え合う児童の育成」を目指した授業づくりを目指す。それぞれの児童の環境や成長、発達段階に応じて、授業の工夫を行っていく。②一斉テストの実施や授業の工夫を通し、意欲的に学び続けられる機会をつくる。③学校司書、司書教諭、図書委員会の活動により、学校図書館の利用促進を図り、読書活動を充実させる。
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力向上に関わる児童の実態
 ○横浜市学力・学習調査では、市の平均に比べて、学年によって結果にばらつきがある。高学年では、市平均と同程度かそれ以上である一方で、低中学年では、学習意欲や学力に課題が見られる。
 ○基礎、基本的な学習の定着に課題が見られる学年には、学力の底上げに取り組む必要がある。
 ○主体的に学びに向かう姿勢を今後目指し、児童が必要感をもって学習できるような授業改善が必要である。
 ○高学年では、音楽への学習意識が高い。これは、子どもが一人で学習を進められるようタブレットを活用する場面と、グループやクラス全体で協力し合う活動の場面に有機的に組み合わせられているためと考えられる。他教科でも、このことをヒントにして、日々の授業づくりができないかを模索したい。
 ○横浜市学力・学習調査の生活意識調査項目「学校図書館へ行くことは好きですか」では、「好き・どちらかといえば好き」と回答している児童が例年多く、子どもが図書に親しめる環境づくりをこれからも続けていく。

今年度の目標

- 各教科の授業づくりを通して、児童が主体的に考え、互いに学び伝え合う力を育む。
- 学ぶ楽しさや喜びを感じられるように、一斉テストの取組や日々の授業の改善を図る。
- 継続して読書を楽しめるよう環境を整える。
- GIGAスクール構想のもと、児童が主体的に情報を集めて、自らの考えを発信できるように学習活動を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の学習を通して、子どもたちにどのような力を付けさせたいのかを明確にし、子どもたちの資質・能力を高めるために、教職員で共通理解を図り、研修を行う。 ○文章作法や語彙力の育成、自己表現する力を養うために、全学年で年間を通して生活文を執筆する。 ○日々の学習指導をより良いものにするために、4月の横浜市学力・学習調査から児童の実態を把握する。 ○基礎学力の定着を図るために、一斉テストで学習状況に応じた漢字と計算に取り組む。 ○児童一人ひとりが自分の目標に向かって努力できるようにするために、新橋一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定し、その目標に向かってどのように取り組むかを考える。 ○児童が安心して図書室を利用できるようにするために、年度初めに、全学年で図書室の使い方についてオリエンテーションを行う。 ○年間を通して、GIGAスクール構想のもと、自ら主体的に情報を集めて、自分の考えを発信できる力を養うためにタブレットを効果的に用いた学習活動を行う。 ○情報リテラシーをもてるよう、年度の初めにガイダンスをする。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちの文章表現に触れる機会を増やすために、毎日お昼の放送で代表児童の生活文を紹介する。 ○さらなる授業改善を図るために、上半期の授業実践を振り返り、反省を下半期に生かす。 ○児童の実態に合わせて授業改善を行うために、横浜市学力・学習調査の結果を分析する。 ○児童が本に親しむ機会を多く設けるために、図書ボランティア「ONEの会」による読み聞かせや、図書委員会による「はまっ子読書週間」の取り組みを行う。 ○並行読書などを通して、授業の中で図書活用をしていく。 ○GIGAスクール構想のもと、タブレット活用方法の振り返りを行い、児童の発達段階や教育的ニーズに合わせたタブレット学習になるように教育環境を整える。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①たてわり班活動や幼保小連携を中心に、異学年交流を工夫して実施する。②道徳の時間を充実させ、年1回、道徳科の授業公開をする。③人権週間の取組を充実させる。④横浜プログラムを活用して、より良い人間関係を構築する機会を設ける。
担当	総務部

豊かな心に関わる本校の状況
<p>(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態</p> <p>○横浜市生活学習意識調査では、「自己意識」の「人と話したり、人の話を聞いたりすることはすきですか」、「自分のことがすきですか」、「自分にはよいところがあると思いますか」の3項目で8割前後の児童が肯定的な回答をしており、横浜市の平均とほぼ同等である。</p> <p>○YPアセスメントの「共感・配慮」の中で、「わたしは、友だちが失敗したり、落ちこんだりしているとき、はげましたりなぐさめたりできます」の項目だけが他項目よりも数値が低い。</p> <p>○困ったり、助けが必要だったりする相手に対して、関わり方をどのようにしていけばよいのかに悩み、適切な行動に移せない傾向がある。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>○たてわり班活動では、活動が制限される中で、可能な限り取り組んだ。</p> <p>○道徳の授業公開は、授業参観が中止となり実施できなかった。</p> <p>○人権週間の取組はほかほかメールの交換、人権キャラバンの実施、思いやりの山活動に取り組んだ。</p> <p>○横浜プログラムの活用研修を行い、Y-Pアセスメントを学級把握の客観的資料とし、学年や学級の実態に合わせてプログラムを年3回は実施できるように校内での推進を図った。</p>

今年度の目標
<p>○たてわり班活動での異学年交流や人権週間の具体的な実践を通して、他者を理解しようとする態度を育成する。</p> <p>○道徳の時間の学習や横浜プログラムの取組によって、自己を振り返ろうとする姿勢を育む。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○安心してたてわり班活動に入ることができるように、教職員で児童理解研修を行うことで児童の姿を共有する場を設ける。</p> <p>○学校生活でも行事を通して他者とのつながりを意識できるようにするために、ペア学年での活動を進める。</p> <p>○校内での道徳教育の質の向上を図り、授業を通して子どもたちが自己理解を深められるようにするために、全学級で年1回道徳科の授業公開を行う。</p> <p>○学校外部の方々と関わりをもって他者理解を深めるために、1～3年生で各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする。</p> <p>○子どもたちに必要な社会的スキルを育むために、学級開きでの横浜プログラムの活用やY-Pアセスメントを実施し、夏季休業前後のSOSの出し方に関する教育に取り組む。</p> <p>○子どもたちが主体的に取り組むことができるように、近隣の幼稚園・保育園との交流計画を立てる。</p>
下半期	<p>○異学年交流を深めるために、たてわり班活動での全校なかよし遠足や6年生のお別れ会を行う。</p> <p>○人権意識を高めて他者への理解を深めるために、ほかほかメール、人権キャラバン、横浜子ども会議に関連した思いやり活動を行う。</p> <p>○学校外部の方々と関わりをもって他者理解を深めるために、4～6年生で各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする。</p> <p>○子どもたちに必要な社会的スキルを育み、集団理解を深めていくために、Y-Pアセスメントを実施し、人権週間に合わせた横浜プログラムの活用をする。</p> <p>○他者とのつながりを意識できるようにするために、近隣の幼稚園・保育園と1年生・5年生を中心に交流を行う。</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①長なわ大会、なわとびチャレンジなど、全校による体力向上の取組や体育科授業の改善を通じ、体を動かすことの楽しさを感じる児童を増やすとともに、児童が日常的に運動する時間や機会の向上や、心身ともにたくましく生きる力を育む。②新橋けんこう会議を開催し、健康についての活動を年間を通して継続的に取り組み、自ら健康を保持増進しようとする態度を高める。③栄養士と連携しながら、家庭科や総合的な学習の時間などで食育に関する授業を行う。
担当	指導部

健やかな体に関わる本校の状況
<p>(1)健やかな体に関わる児童の実態</p> <p>○横浜市体力・運動能力調査や生活実態調査では、睡眠時間が8時間未満(3年生以上)の児童が半数以上いた。また、テレビ(ゲーム含む)の視聴時間が3年生以上の男子は「3時間以上」と回答した児童が4割を超える。</p> <p>○体育の授業を除いて、週当たりの運動日数が1回を下回る児童が平均して2割ほどおり、1日の運動時間については、1時間未満の児童が半数となっている。</p> <p>○新体力テストの実施種目の中で、市の平均値を下回る項目が複数ある。特に、「握力」「反復横跳び」「ソフトボール投げ」では、学年や性別を問わず、下回っている。</p> <p>○新橋けんこう会議のアンケートで、中休みに校庭でほとんど毎日遊んでいる、時々遊んでいる児童があわせて5割以上、いつも教室で遊んでいる児童が1割以上だった。</p> <p>○歯科検診の結果、う歯があった児童は1割だった。歯肉炎がある児童もいた。歯科巡回指導の結果はAが8割以上だった。</p> <p>○給食残量調査の結果は主食では米飯、牛乳、副菜では豆類、野菜類、果物類の残量が多い。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>○運動委員会が中心となって、「なわとびチャレンジ」に取り組んできた。</p> <p>○体育部を中心に、情報発信や助言を行い、体育科の授業改善を行ってきた。</p> <p>○新橋けんこう会議では健康アップ大作戦!のテーマのもと、運動、食事、清潔、けがの予防、心の健康の中から各クラスの課題を考え、1年間を通して課題に向けての取組を実践した。</p> <p>○6月の歯科衛生月間に、校内で給食後の歯みがきに取り組んだり、コロナ禍では家庭と連携して1か月間、朝と夜の歯みがき頑張張りカードの取組をした。</p> <p>○食育体験活動の実施 マリス食育出前講座(2年) 味覚の授業(5年) バイクング給食(6年)</p>

今年度の目標
<p>○日常的(週当たりの日数、1日の活動時間)に体を動かす児童の数を増やし、体力の向上や運動習慣の定着、生活習慣の改善を図る。</p> <p>○児童一人ひとりが健康な生活や食生活について具体的な実践を考えることで、主体的に健康を保持増進しようとする態度を育成する。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○児童が体を動かすことをより好きになるような、体育科指導の改善をするために、研究会での授業実践を情報発信ツール(ミライム)で発信したり、体育部からの助言を校内実技研修やメンター研を通じて行ったりする。</p> <p>○学校生活における健康的な生活習慣を身につけるため、第1回新橋けんこう会議にむけて、運動、食事、清潔、けがの予防、心の健康の中から各クラスの目標や具体的な取組を決めて実践を始める。集合開催の新橋けんこう会議では、事前にとったアンケート結果を共有したり、外部講師の話や体験をしりする場を設ける。</p> <p>○歯みがきの習慣を身につけるため、6月の歯科衛生月間に給食後の歯みがきに取り組む。コロナ禍では家庭と連携して2週間、朝と夜の歯みがきががんばりカードの取組を実施する。</p> <p>○食事の基本的なマナーや衛生面で大切なことを定着させるために、給食時間や学級活動を活用して計画的に食育の指導を進める。</p> <p>○「ばくばくだより」を活用し、食べ物の3つの働きや食品の知識を知らせる。</p>
下半期	<p>○日常的に体を動かす動機につなげるために、体育委員会を中心とした「なわとびチャレンジ」や「長なわ大会」の取り組みを行う。</p> <p>○運動習慣や生活意識を継続的に振り返ることができるようにするために、横浜市体力・運動能力調査の記録を健康手帳に残す。</p> <p>○学校生活における健康的な生活習慣を身につけるため、運動、食事、清潔、けがの予防、心の健康の中から選んだ各クラスの取組を1年間続け、第2回新橋けんこう会議にむけて成果を振り返り、さらに実践を継続できるようにする。</p> <p>○歯みがきやバランスのとれた食生活などの生活習慣が実践できるように、歯科巡回指導を実施し、家庭に指導内容や口の中のチェック結果を返して連携していく。</p> <p>○給食集いを計画し、給食委員会が中心となって食べる事への感謝や関心を高める。</p> <p>○食への関心を高めるために、食に関する体験活動を実施する。</p>

学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的な取り組み

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組
		年間
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◆人・こと・ものへの好奇心 ◆学校の約束を守る気持ち ◆主体性・積極性 ◆身近な地域への愛着 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の生活や学習のルールを伝え、学校での正しい過ごし方について日常的に指導していく。 ・生活科などでは、身近な自然や人と繰り返し関わりながら、興味関心を高め、具体的な活動や体験を通して気付いたことや楽しかったことについて考え、諸感覚を使って表現することができるようにする。 ・話している人の方を向いて聞くことや、相手に伝わるように話すことを意識することで、伝え合うよさを味わえる経験を積み重ねられるようにする。 ・できるようになったことをほめたり、価値づけたりすることで、児童が自己有用感を高め、自分を進んで表現しようとする意欲を高める。 ・情報を扱うための約束を守ることや、身近なことについて情報を収集する経験を積む。 ・身の回りには、プログラミングされているものがあることを知る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◆社会生活の中での協調性 ◆自分のことを好きである気持ち ◆身近なことについて様々な情報を収集する力 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分のことを好きである気持ち ◆他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ◆課題対応力 ◆意思決定力 ◆学校生活へ参画する力 ◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちしらべや社会科見学を通して、地域の特色や地域の人の思いに気付かせる。 ・総合的な学習の時間では、生き物・食・まちづくり・福祉など、現在のまちが抱える課題や新橋・弥生台の特色に応じた課題について、地域の人々と関わりながら、体験的・問題解決的な学習活動を行っていく。 ・宿泊体験学習や校外学習の計画や運営体験を通して、友だちと協力しながら行事を進める大切さについて気付くようにする。 ・個に応じた指導を効果的に行い、一人ひとりが得た達成感を、更に次の学びに繋げながら学習を深める。 ・目的を意識して情報を活用したり、自分や周りの人の情報を大切に扱う気持ちをもったりする ・身の回りの生活の中で、プログラミングが活用されていることを知る
4年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己を客観的に見る力 ◆課題に対応する力 ◆学校生活へ参画する姿勢 ◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ◆自分の良さに気付く力 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己を客観的に見る力 ◆課題に対応する力 ◆学校生活へ参画する姿勢 ◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ◆自分の良さに気付く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもち、適切な場のもとで学んだ事を友だちと伝え合うことで、よりよい考えをさらに生み出すようにしていく。 ・自分と他者との考え方の違いを受け止めながら、自分の考えを深め友だちに表現する活動を重視していく。 ・総合的な学習の時間では、課題解決や探求的な活動を重視する。互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換など他者と協働する学習活動を重視し、まとめ方も工夫していく。 ・いろいろな人と関わりながら、自分の生き方をふり返り、これからの生き方について考えたり、課題をもとに次の目標を設定したりできるようにする。 ・委員会活動やたてわり班活動を通して、学校全体をうまくまとめるためには、どうすればよいか考えることができるようにする。 ・教科担任制による指導のもと、一人ひとりが自分の問いや、めあてをもち、適宜振り返りをしながら、自分の学びを深めようとする意欲を高める。 ・様々な情報を活用したり選択したりして、自分の考えを適切に表現する力を高める。 ・日常生活や社会において、プログラミングが活用され、便利になり、様々な問題を解決していることを知る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己を客観的に見る力 ◆課題に対応する力 ◆学校生活へ参画する姿勢 ◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ◆自分の良さに気付く力 	
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分のことを好きである気持ち ◆人・こと・ものへの好奇心 ◆社会生活の中での協調性 ◆自分らしさを発揮しようとする姿勢 ◆課題に対応する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じて、必要な取組を行うようにする。 ・集団の中で、自分らしさを発揮できるような場面を設定していく。 ・子どもたちが集中して学習に取り組むことができるように環境の整備を行う。 ・栽培活動、交流活動などの生活に基づいた活動を通して、コミュニケーション能力や生活場面で活用できる力を身につけるようにする。 ・情報を扱うための約束を守る気持ちをもつ。

重点的な3つの取組

今年度も状況に応じて、変更することもあります。

* えがお「子どもたちの安心・安全・健康」

○誰もが安心して

- ・新橋小ルールブックに基づいた生活をするようにする。
- ・生活アンケートの活用から子どもたちの困り感を見つけられるようにする。
- ・避難訓練や各種安全教室の開催で、安全について知る機会をつくる。

○こころも体も元気よく

- ・新橋けんこう会議に向けて、年間を通して健康課題に取り組む。
- ・栄養士と食教育に取り組む。
- ・なわとびチャレンジ、ほかほかランニングチャレンジを通して体力づくりに取り組む。

○どの子どもにもできる喜びを

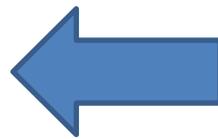
- ・学習環境のユニバーサルデザイン化で学習に安心感を。
- ・ボランティアの先生による支援で学習に自信を。

(具体的な見える化)

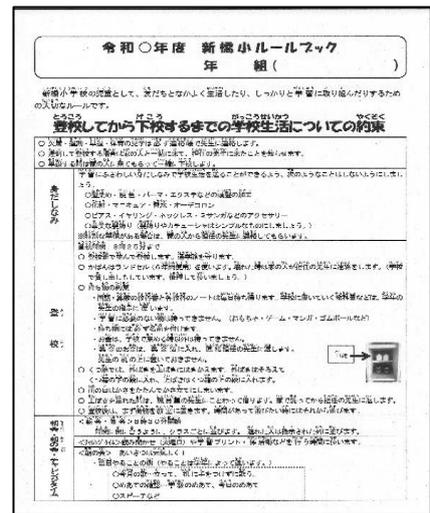
家庭にも家庭生活の手引き(新橋小ルールブック)を配付して見える化
学校だより等で子どもの様子を発信して見える化



家庭生活の手引き



家庭生活の手引きの中に入っています。



新橋小ルールブック



ユニバーサルデザイン



避難訓練の様子

* なかよし「学校生活の活性化」

○幼保小連携の継続

- ・1年生・5年生と年長児による小学校の様子を伝える手紙や映像を通じた交流を図る。
- ・5年生と年長児によるパンジーの苗の鉢植えを行う。

○たてわり班やペア学年による交流の推進

- ・学習の成果を伝えるな機会をもち、交流を進める。
- ・学習や行事におけるペア学年や異学年での交流を行う。
- ・ペア学年やたてわり班での集会を実施していく。

○友だちとの違いを認めながら

- ・社会福祉法人ぴぐれっととの継続可能な交流を通して人権感覚を身に付ける。
- ・人権月間の取組（ぼかぼかメール、人権キャラバン）から、自他を大切にする。

○地域の人たちとの交流を継続

- ・地域の方と授業や行事を通して交流を図る。

（具体的な見える化）

学校だより・ホームページ等で子どもの様子や地域の人との交流を発信して見える化

5年と年長児で植えた植木鉢の花を校庭に飾ることで見える化



1年生と年長児との交流



5年生のパンジーの植え替えの様子



たてわり班活動（たてわり班で集会や全校遠足を行いました。）

* チャレンジ「一人ひとりの力を伸ばす」

○新橋小学校のチャレンジの取組で…

- わかることの楽しさを味わう。
- 自分の成長を自ら喜ぶ。
- 学び方を知る。
- 継続して取り組む経験をする。
→子どもたちの意欲を高め、学力・体力向上に向けた取組をしていく。

具体的には、

- ◎読書活動
- ◎一斉漢字・計算テスト
- ◎ICT 機器（タブレット端末など）の活用

○表現力や思考力、学習意欲を伸ばすために

- 子どもたちが自分の考え・思い・成果を発信できる場をつくる。
→普段の授業や生活の中で、自分の得意を見つけ、伸ばしていけるようにする。

(具体的な見える化)

廊下の掲示物や生活文で、取組の様子を見える化

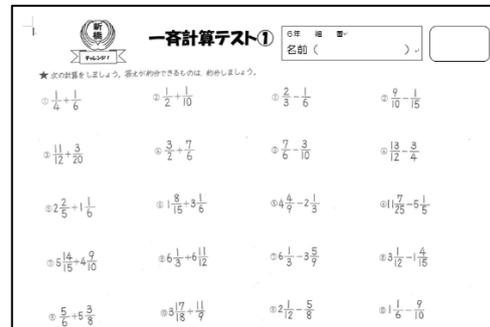
「チャレンジファイル」に、プリントをファイリングし、取組の成果を見える化

学校ホームページ等で、子どもたち自身が自分たちの活動や思いを発信して見える化

「自分づくりパスポート」で、行事や日々の生活を通して、自らの成長を振り返る。



つゆの読書マラソン



一斉計算テスト（1年生は8月より）

